

# 「川内小学校の日暮長者伝説伝承活動の取組」

## 1 学校名

薩摩川内市立川内小学校

## 2 学年・人数

3年生（計44人）

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

平成29年10月～（会議室・体育館・プレイルーム）

### (2) 発表の日時・場所

平成29年10月29日（日）（すこやかふれあいプラザ）

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

### (1) 名称

日暮長者伝説（ひぐらしちょうじゃでんせつ）

### (2) 由来

日暮長者伝説は、室町時代末期に金剛弥五郎により創作された謡曲「鳥追舟」により全国に知られた伝説である。謡曲と地元で伝わる話とはやや差違はあるが、長者が在京中に、長者の子（姉・弟）を長者の後妻が、10年間毎日小舟に乗せ水田の鳥を追わせたので、姉弟はその苦辛に耐えかね、川に身を投げたという悲劇である。里人は2人の屍を手厚く葬りそこにタブの木を植えた。その場所が現在の鳥追いの杜と言われる。

### (3) 構成等

日暮長者、お北（姉）、花若（弟）、お熊（継母）、柳御前（実母）、左近允（日暮長者の家来）の6人の役の児童が音楽に合わせて動きを演じる。また、演じる者以外の児童全員で日暮長者伝説の場面ごとの様子を歌う。また、姉弟が鳥追いしている場面では、太鼓を鳴らす。構成としては、「歌」→「台詞（グループ・1人）」→「歌の繰り返し」で、最後は全員で全ての場面を通して歌う。

## 5 保存会や地域との連携の具体

校区の伝説を多くの市民に知ってもらえるように、川内地区コミュニティセンターの生涯学習フェアや薩摩川内市生涯学習フェスティバル（平成26年度）に出演している。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・ ふるさと・コミュニケーション科の一貫として、本校の第3学年で毎年取り組んでいる。
- ・ 姉弟（お北・花若）に共感させるために、全員が浴衣を着用するとともに、簡易な川や山の様子を再現する場の設定を行った。
- ・ 謡曲「鳥追舟」を基に、第3学年の児童が覚え演じやすい場面を焦点化したり、現代語訳をしたり、音楽を入れオペレッタ風にしたりした。
- ・ オペレッタ発表の中に、関係史跡の紹介も入れることで、児童の地域理解を深めることにした。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【会議室で練習する様子】



【川内地区生涯学習フェアでの発表】



【校区にある関係史跡を紹介】



【多くの地域の方々が観覧する様子】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### ○ 児童

- ・ 練習してきたとおり、みんなで協力して最後までしっかり演じることができた。たくさんの方に見てもらえて、とてもうれしかった。
- ・ 自分のセリフは大切なところだったので、とても緊張した。悲しいお話をうまく伝えることができ、ほっとした。

### ○ 保護者

- ・ 児童の発表を通して、地域に伝わる話を知ることができた。役になりきって演技ができていて、我が子の成長を感じた。

### ○ 教職員

- ・ 地域の伝説を学習するに当たり、ただ話を聞くだけでなく実際に演じることで、児童にはたくさんの発見があった。児童の記憶に長く残る学習となった。観覧いただいた方の感動を児童も感じ取り、「生涯学習フェアに参加して良かった。」とまっているようである。